

# 平成 30 年度 地域ケアプラザ事業報告書

## ■ 施設名

西金沢地域ケアプラザ

## ■ 事業報告

今年度、地域ケアプラザの管理運営をどのように行ったのか、具体的に記載してください。

以下、地域ケアプラザ事業実施評価との共通部分

### 1 全事業共通

#### 地域の現状と課題について

- ・ 金沢自然動物園に隣接する地域は、山坂が多く、高齢者にとって外出の意欲を阻害するのみならず、容易に出かけて行く事の出来る範囲内に生活用品を扱う商店がないエリアな為、地域住民と協働し移動販売車導入に向け協議体を立ち上げました。
- ・ 地域住民の互助活動としてボランティア団体が自治会・町内会ごとに組織化されており、元気な高齢者が多数参加しています。長年培ってきた趣味活動や特技を活かし、ボランティアとして積極的に活動し、地域を支える風土ができています。今後、自治会・町内会の枠を超え発展していくことが、高齢化率の高い地域の課題として西金沢地域支え合いネットワークで検討されました。
- ・ 西金沢地域支え合いネットワークが主体となり、エリアフリーの事業「だれでもカレー」を年度内で2回開催することができました。様々な年代の方々が集う交流の場の役割にとどまらず、ボランティアの担い手を次世代に継承していく機会として展開することができました。

#### (1)相談（高齢者・こども・障害者分野等の情報提供）

##### 高齢者

- ・ 地域サロンを訪問し、気軽に相談を受ける場を設けました。
- ・ 個別のご相談には地域包括支援センター職員が対応しますが、包括職員不在時には他部署でも対応できるよう、相談票による受付体制を整え、窓口対応を行いました。

##### こども

- ・ 相談は専門機関へつなげました。また、ケアプラザ事業の参加にもつなげ、子育て事業「ジャンケンポン」も今年度より月2回に増やし開催をしました。
- ・ 定期的に関係機関との連絡会を開催しました。
- ・ 子育て支援拠点「とことこ」と連携し、子育て事業「ジャンケンポン」の参加者がケアプラザで気軽に相談ができる場を作りました。

##### 障がい

- ・ 相談は行政機関と連携して専門機関へつなげました。
- ・ 定期的に関係機関との連絡会を開催しました。

## (2) 各事業の連携

### 高齢者

- ・認知症高齢者に優しい地域づくりを目指し、西金沢地域支え合いネットワークメンバーと5職種で連携し、見守り機能を充実させました。また、「はいかいSOSネットワーク」等の組織について地域サロン等で説明し、釜利谷地域全体で見守る形を作りました。
- ・認知症対応では、お元気サロン「かたつむりカフェ」を5職種連携で開催し、協力医の先生にも毎回ご参加頂き、相談機能を充実させました。
- ・西金沢地域支え合いネットワークと5職種で連携し、高齢者の見守り機能について充実させるため、地域住民同士の交流の場を作りました。(だれでもカレー)
- ・地域活動・交流、生活支援、地域包括の職員が各町内のサロンへ出向き、情報提供を行いました。

### こども

- ・隔月で、釜利谷地域ケアプラザ、子ども家庭支援課、主任児童委員と連絡会を開き、情報共有を行いました。この連絡会で得た情報から、地域ニーズに沿った講演会等を開催しました。
- ・子育て支援拠点「とことこ」と連携し、子育て事業「ジャンケンポン」の参加者がケアプラザで気軽に相談ができる場を作りました。

### 障がい

- ・隔月で、釜利谷地域ケアプラザ・子ども家庭支援課・障がい児者支援団体・主任児童委員と連絡会を開き、情報共有を行いました。この連絡会で得た情報から、地域ニーズに沿った講演会等を開催しました。

## (3) 職員体制・育成、公正・中立性の確保

- ・「地域活動・交流」、「生活支援体制整備事業」の人員配置は適切に行うことができましたが、「地域包括支援センター」は、職員退職により3月欠員が生じました。職員の連携で地域事業等、業務を遂行いたしました。適切な配置ができない期間がありました。職員の研修で得た知識を基に、関係機関と連携して地域支援に取り組む体制を維持することができました。
- ・全職員が研修計画を作成し、積極的に研修に参加し知識・技術を学ぶ環境整備に全職員の協力により取り組むことができました。
- ・行政や事業所からの情報を常備し、地域に情報提供を行うと共にアンケートを実施し、地域からの要望・相談に公正・中立な姿勢で対応いたしました。

## (4) 地域福祉保健のネットワーク構築

- ・地域関連団体との連携を図るため、定期的に子育て支援、障がい児者支援に関する連絡会に参加し、積極的に情報交換を行うとともに地域のニーズを把握することに努めました。
- ・西金沢地域支え合いネットワーク（民生委員児童委員・保健活動推進員・シニアクラブ・地域ボランティア活動団体）の構成員が中心となり、自治会・町内会の隔てを越えて参加できる「だれでもカレー」を2回開催しました。
- ・民生委員児童委員交流会を年4回、保健活動推進員交流会を年1回、定期的で開催し、情報交換を行いながら住民同士のネットワークの強化に努めました。
- ・近隣大学と連携し、地域住民と学生の交流の場を提供しました。(芸術祭)
- ・行政、金沢区社会福祉協議会との定期的な会合に参加し、関係を構築しています。
- ・横浜市立大学と関東学院大学でボランティア講座を開催し、地域での活動の場を提供し、ネットワークを構築しました。
- ・担当エリアのキャラバンメイト連絡会を開催し、キャラバンメイトが中心となり認

知症サポーター養成講座を開催しました。

- ・高齢化が進むこの地域に移動販売車を誘致したく「買い物支援プロジェクト」を協議体として立ち上げ地域課題について話合いました。

#### (5) 区行政との協働

- ・毎月定例会を行い5職種の参加、情報交換・事業報告・ケースカンファレンスを実施しました。
- ・困難ケースへの対応や各事業における問題などについては、随時相談、情報共有し問題解決が行えました。
- ・一人暮らし高齢者「地域で見守り」推進事業に、釜利谷地区民生委員児童委員協議会と連携して取り組みました。
- ・金沢区地域福祉保健計画区域計画に掲げる「見守りの輪を拡大」、「相談機能の充実と支えあいネットワークの構築」、「啓発・きっかけづくり」等に取り組みました。
- ・今年度から釜利谷地域支援チームへ5職種全員が参加し、金沢区地域福祉保健計画地区別計画の策定に取り組みました。

## 2 地域活動交流事業

#### (1) 自主企画事業

- ・地域のニーズに沿って、子育て事業「ジャンケンポン」を月1回の開催から月2回の開催に変更しました。また、高齢化が進んでいる地域なので、体を使う事業ではなく、手や頭を使う新たな事業として「みんなでワイワイ百人一首」を毎月1回開催しました。
- ・生活支援コーディネーターと連携し、「男性料理教室」「よこはまシニアボランティアポイント登録講習会」を開催し、やりがいを持ってもらえるきっかけ作りの機会を設けました。
- ・地域包括支援センター3職種、生活支援コーディネーターと連携し、西金沢学園の小学4年生を対象に「認知症サポーター養成講座」と「高齢者疑似体験」を開催し、認知症や高齢者に対する理解を深める機会を設けました。
- ・西金沢地域支え合いネットワークでは、『多世代交流』『エリアフリー』『男性の居場所作り』をテーマに、西金沢コミュニティハウスにて「だれでもカレー」を2回開催しました。西金沢地域支え合いネットワークのメンバーを中心に、エリアのボランティアさんや西金沢学園の中学生にもボランティアとして参加していただき、多世代交流だけではなく、将来の担い手の育成にも努めました。

#### (2) 福祉保健活動団体等が活動する場の提供

- ・貸館交流会を年1回開催し、団体間の交流を深め、活動の場を広げました。
- ・自主事業を貸館利用の少ない土曜日や夜間、午後2の時間帯に開催し、福祉保健活動団体が利用しやすい環境を整えました。
- ・福祉保健活動を促進する拠点として、貸館利用団体に地域福祉活動への参加を勧奨し、施設内のボランティア活動や事業への参加を勧めました。
- ・デイサービス、交流サロン等のイベントで、披露の場を提供しました。
- ・福祉保健活動団体が西金沢学園で読み聞かせの活動を行っていますが、今後も他の団体が活動できる機会を増やせるように学校と連携を図りました。
- ・「だれでもカレー」「芸術祭」にて福祉保健活動団体のイベント披露の場を提供しました。

### (3) ボランティアの育成及びコーディネート

- ・よこはまシニアボランティアポイント登録会を開催し、ボランティア活動の拡大に努めました。
- ・多世代交流やエリアフリーを目的とした「だれでもカレー」は、西金沢コミュニティハウス（旧西金沢中学校）で開催するので西金沢学園と連携し、中学生ボランティアが活動する場を作りました。
- ・ボランティア交流会を開催し、ボランティア間での情報交換・交流を図る場を提供しました。
- ・広報誌、ホームページ、館内掲示等で随時ボランティア募集を行いました。また、ボランティア募集の詳しい内容を載せたチラシを配布し、直接呼びかけました。
- ・近隣大学でボランティア講座を開催し、学生ボランティアの参加につなげました。

### (4) 福祉保健活動等に関する情報収集及び情報提供

- ・広報誌「にしかぜ」への記載や各種事業開催のチラシを関係機関に配布するとともに、各町内会館で開催しているサロン等へ出向き、情報を提供しました。
- ・地域活動交流の事業についてのアンケートや地域住民、福祉保健活動団体、町内会の各種活動へ参加するなど、様々な機会を通じてニーズや情報を把握し、事業の展開に反映させました。
- ・子育て連絡会、障がい児者支援連絡会、コーディネーター連絡会等で、開催事業の情報提供及び収集を行いました。
- ・貸館を利用した貸館団体に、利用アンケートを実施し、地域ニーズに沿った新規事業を開催しました。
- ・貸館利用団体同士、または貸館利用団体と職員の交流会を行いました。

## 3 生活支援体制整備事業

### (1) 事業実施体制

- ・地域アセスメントから見えた3つの課題、「多世代交流」、「男性の居場所づくり」、「エリアフリー」の解決に向け、“西金沢地域支え合いネットワーク”の構成員を軸に、5職種で連携し「だれでもカレー」を6月と1月の2回開催しました。カレーだけでなく喫茶室、イベント、健康ブース、子どもが遊べる場を新たに用意し、300人を越える方が足を運んでくれました。
- ・将来の人生設計を考える「マンダラエンディングノート」づくり、男性が手軽に作れる「男性料理教室」、頭の体操も兼ねた「百人一首」事業を地域交流と共催で開催しました。
- ・5職種での連携事業「茶々やき」、出張サロン「北谷サロン」、認知症カフェ「かたつむりカフェ」を毎月開催し、高齢化が進む地域ニーズに沿った、事業を開催しました。

## (2) 地域アセスメント（ニーズ・資源の把握・分析）

- ・ 地域資源の新たな情報を収集し、「お役立ちマップ」を更新しました。
- ・ 元気なシニアが多いこの地域で“よこはまシニアボランティアポイント登録講習会”を実施し新たな活動につなげました。
- ・ 最新のインフォーマル情報を確認し、情報提供しました。
- ・ 夏山東町内会と「買い物支援に関する」全戸アンケートを実施しました。集計結果を基に分析し買い物支援について地域の方の意見を把握する事ができました。また、その結果を基に”移動販売車“の運行誘致を地域住民と共に積極的に取り組みました。

## (3) 連携・協議の場

- ・ 高齢化が進み、将来的に買い物困窮者が増える事を想定し、エリアの自治会町内会集まり「買い物支援プロジェクト」を協議体として立ち上げました。
- ・ 民生委員児童委員、保健活動推進員、ボランティア活動団体等の組織で構成されている「西金沢地域支え合いネットワーク」を軸に5職種が連携し「だれでもカレー」を6月、1月に開催しました。
- ・ シニアクラブの定例会にて、定期的に参加者のニーズに沿った講演会やイベントボランティアを紹介しました。講演会：7月「介護老人保健施設の紹介」10月「脳卒中について」イベント：2月「指笛」

## (4) より広域の地域課題の解決に向けた取組

- ・ 地域のサロン、シニアクラブ、町内会の会合へ出向き、「はいかいSOSネットワーク」等の周知を行うことで、認知症の方も安心して暮らせる地域づくりを行政の取り組みとともに進めました。
- ・ 高齢化が進み将来の買い物困窮者対策として“買い物支援プロジェクト”を協議体として立ち上げ、移動販売車の運行誘致に向けて地域と一体となり取り組みました。

# 4 地域包括支援センター運営事業

## (1) 総合相談支援業務

### ① 地域におけるネットワークの構築

- ・ 地域のネットワーク連携構築強化に向け、定期的な連絡会を活用し更なる連携強化が出来ました。
- ・ 医療機関、サービス事業所を訪問し、顔の見える関係が出来ました。また、顔の見える関係から連携が取れる関係につながりました。
- ・ 釜利谷お役立ちマップを活用し、いつでも地域情報の提供が出来ました。また、ケアマネジャーの社会資源の把握としてお役立ちマップが活用出来ました。

## ②実態把握

- ・ 個別訪問やサロン等への参加など、地域に出向いてニーズの把握が出来ました。高齢者のみならず、多世代交流の場でアンケートを実施し実態の把握が行えました。
- ・ 居宅介護支援事業所を毎月複数回訪問し、ケアマネジャーから情報を収集、困難ケースの情報共有が図れました。

## ③総合相談支援

- ・ 「地域支え合いマップ」を活用し、支援対象者の把握や支援に繋がられました。
- ・ 相談内容に応じて、釜利谷地域お役立ちマップの活用やケアプラザの事業の案内等の情報提供が出来ました。
- ・ 窓口相談、電話相談のみならず、ケアプラザへの来所時や町内への出張時、また事業終了後などの機会を捉え、地域住民へ積極的に声かけを行うことで、相談しやすい環境を作り状況把握が出来ました。

## (2) 権利擁護業務

### ①成年後見制度の活用促進・消費者被害の防止

- ・ 司法書士や行政書士による、講習会と個別相談会を開催し、成年後見制度の周知活動を行いました。また、成年後見申し立て手続きのサポートを行いました。
- ・ 近隣郵便局を訪問し地域包括支援センターの案内を持参するなど、消費者被害の防止に努めました。また、消費者詐欺注意を呼びかけるチラシを作成し、事業や窓口での配布を行い被害防止に努めました。

### ②高齢者虐待への対応

- ・ 介護者同士が交流し、気持ちを共有できる場となるよう「介護者の集い」を2ヶ月に1回開催をしました。
- ・ 虐待の疑いがある場合は、速やかに情報収集を行い、関係機関に報告するよう、情報共有と連携の体勢ができています。また訪問を行うなど介護者への支援にも取り組みました。

### ③認知症

- ・ 包括エリア内の認知症キャラバン・メイト連絡会を開催しました。
- ・ 認知症カフェを毎月1回開催し、認知症の人や家族が安心して過ごせる場所を定期的に提供しました。
- ・ エリア内の小・中一貫校で認知症サポーター養成講座を開催し、認知症についての正しい知識の普及・啓発に取り組みました。
- ・ 認知症を正しく理解できるよう、地域住民向けに講座を開催しました。

### (3) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

#### ①地域住民、関係機関等との連携推進支援

- ・町内への出張サロン、各種連絡会、各種事業にて地域住民に対して介護保険制度やケアマネジャーの役割などについての周知活動が出来ました。
- ・ケアマネジャーと民生・児童委員、関係機関の情報共有を目的とした連絡会を3ヶ月に1回定期開催し情報共有がタイムリーに密に行えました。
- ・パーキンソン病の患者とその家族を対象に、年2回交流会を開催（釜利谷地域ケアプラザと共催）し、ケアマネジャーに情報提供が行え、介護者同士の繋がりも出来ました。

#### ②医療・介護の連携推進支援

- ・行政、三師会、在宅医療相談室、金沢ケアマネクラブ、他地域包括支援センター、金沢区内の主要病院と協力して医療従事者と介護従事者の情報交換会を開催。連携強化を図れました。

#### ③ケアマネジャー支援

- ・毎月複数回、居宅介護支援事業所を訪問し、ケアマネジャーからの相談や経過報告情報共有を行い、困難ケースの同行訪問などを行いました。
- ・支援困難ケースの相談には、関係機関と連携して同行訪問を実施出来た。
- ・他の地域包括支援センターと協働し、ケアマネジャー向けの研修を企画、計画的に開催出来ました。

### (4) 多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築・地域ケア会議

#### 多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築・地域ケア会議

- ・個別の地域ケア会議、包括レベルの地域ケア会議を開催し、多職種の視点を交えて検討することで、職種間の連携促進が図れました。
- ・地域ケア会議で明らかになったニーズに対して、関係機関と連携して対応する事が出来ました。

### (5) 介護予防ケアマネジメント（指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業）

#### 介護予防ケアマネジメント（指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業）

- ・住み慣れた家で自分らしく生活していけるよう、適切にアセスメントを行い、状態がそれ以上悪化しないよう、インフォーマルサービスを含めた自立支援のケアマネジメントが出来ました。
- ・利用者の「こうなりたい、したい」という意欲を大切に、「維持・解決すべき課題」を明確にした上で、楽しみや生きがいのある生活を過ごせるケアマネジメントが出来ました。
- ・ケースを委託しているケアマネジャーに、地域のインフォーマルサービス、お役立ちマップの情報提供が出来ました。

## (6) 一般介護予防事業

### 一般介護予防事業

- ・自分のスタイルに合った健康づくりに取り組めるよう、地域内の体力測定などの活動を支援するとともに、健康講座・講演会等を開催しました。
- ・地域活動・交流、生活支援体制整備事業との共催で開催している地域住民向けのお茶会で、介護予防や認知症予防の体操を行いました。
- ・地域で介護予防の活動をしている自主グループへ、活動継続のための支援を行いました。

## 5 その他

- ・5職種連携による地域における公益的な取り組みの推進として、西金沢地域支え合いネットワークが軸となり、自治会・町内会の枠を超えた“だれでもカレー”を年2回開催しました。
- ・高齢化が進むこの地域で、将来的に買い物困窮者が増える事が予想されます。この問題について”買い物支援プロジェクト“として協議体を立ち上げ、移動販売車運行誘致に向け活動しました。

以下、地域ケアプラザ事業実施評価との相違部分

施設の適正な管理について

### (1) 施設の維持管理について

- (ア) 安全・快適に施設を利用していただくために、年間保守管理計画に沿った保守点検を以下の通り実施し致しました。
- ・総合巡視点検、消防設備点検、電気設備点検、EV安全点検、自動ドア安全点検⇒消防法・建築基準法など法令遵守に基づく法定点検を実施、区役所に結果を報告し改善が必要な場合は迅速に対応いたしました。
  - ・施設定期清掃、緑地保全管理（除草 芝刈り 樹木の剪定 施肥 害虫駆除等）上記、保守・点検を定期的に委託業者が実施しております。
- (イ) 施設建物内外修繕等の施設維持管理費用については、事前に協議書を提出し、介護保険事業と指定管理事業で協議書回答に基づき按分致しました。
- (ウ) 日常の設備、備品、清潔保時点検を職員が行い、年間を通じて手指用の消毒液を玄関、各部屋入り口に設置し感染症の予防に取り組みました。

### (2) 効率的な運営への取組について

- ・横浜市から委託されている公的施設として適切な運営を行うために経費の無駄を省き、資源の有効活用のため徹底したゴミの分別に努めました。
- ・法人全施設で月毎に収支状況を確認し予算管理に基づき、コストを意識した運営を行いました。電気、水道、ガス等の公共料金についても把握し省エネに取り組みました。
- ・消耗品等物品購入にあたっては、法人で統一し共同で購入することで価格と品質のバランスに留意した無駄なく適切なものを選択することができました。
- ・法人全施設で運営項目管理表・活動計画の進捗を共有し効率的な運営に取り組みました。



### (3) 苦情受付体制について

- ・ 苦情受付窓口や委員会構成員、解決手順等を「苦情処理委員会の運営について」を掲示し苦情受付の体制を周知致しました。
- ・ 苦情処理委員会を毎月開催し「お客様アンケート」での指摘・要望への対応策の検討や、「ミス・クレーム・事故報告書」、「ヒヤリ・ハット改善提案」等の検証及び評価を行い職員への周知を徹底し改善に努めました。
- ・ 利用者の視点に立ち苦情解決を行うための人材育成に必要なマニュアルを用い内部研修を実施致しました。
- ・ 情報ラウンジに「ご意見箱」、受付に「法人アンケートはがき」を常置し施設利用者からご意見をいただきました。

### (4) 緊急時（防犯・防災・その他）の体制及び対応について

#### 防犯

- ・ セキュリティー会社に業務委託し施設・法人の緊急時連絡網を月毎に確認し更新しました。閉館時の日常点検は、施錠を含め点検チェックリストを用いて職員がダブルチェックを遵守しました。
- ・ 事故防止検討委員会・感染症予防対策委員会・防災委員会を定期的に開催し委員会で策定したマニュアルの見直しを行いました。各マニュアルを活用し委員会が研修を開催しました。
- ・ 防犯カメラ、ドライブレコーダーを設置し活用することで事故防止・防犯意識を高めることができました。

#### 防災

- ・ 防災委員会で防災・避難マニュアルを用い、緊急時対応の内部研修を職員向けに実施しました。
- ・ 委員会が中心となり、消火器・懐中電灯等備品の点検を定期的に行いました。
- ・ 福祉避難所の役割を職員が認識し備蓄物資は、地域活動・交流部門が行政機関と連携し管理、適切に整備・保管しています。
- ・ 避難訓練を毎年4月・9月に計画し、「火災発生」、「地震・建物倒壊の危険」を想定し実施しました。全在館者に参加を促し、「避難マニュアル」に沿った職員の誘導対応訓練を兼ねて実施しました。

### (5) 事故防止への取組について

法人内で事故報告を共有し事故分析・再発防止策の検証を事故防止検討委員会で行いました。

#### 事故防止検討委員会の開催

- ・ 毎月第三金曜日に介護・車輛事故等報告書を検証しました。「事故報告書」、「ヒヤリ・ハット改善提案書」を活用することで、事故の原因と未然防止策を職員間で共有し再発防止に努めました。
- ・ 業務開始前の朝礼で「無事故宣言」の唱和を行い事故防止の啓発に努めました。
- ・ 施設全車にドライブレコーダーを設置し、安全運転の励行と事故の事実確認に役立てました。
- ・ 施設全職員の事故再発防止共有を目的として、原因究明・対応策の評価・検証報告を作成し周知、再発防止に努めました。

#### (6) 個人情報保護の体制及び取組について

- ・法人で定めた「個人情報保護に関する基本方針」、「個人情報の利用目的」、「個人情報の取り扱いについてのご説明」に基づき、業務において個人情報を適正に取扱い、個人のプライバシーを侵害することのない行動を法人で作成したルールブックを用い勉強会を行いました。
- ・職員入職オリエンテーション時に、就業規則に定めた「個人情報の取り扱い」「守秘義務」の説明を行い誓約書を保管、実習・研修・ボランティアにも説明をしました。
- ・公的機関から発信される個人情報保護に関する行動確認書を活用し、業務に関わる個人情報の適切な使用方法をチェックしました。
- ・重要事項説明の際、個人情報の使用範囲を明確に示し利用者の了承の上での取り扱いを徹底しました。
- ・郵便物、ファックスの送信はダブルチェック実施、ケースファイルやパソコンは施錠管理、契約書・申請書等外部への持ち出しは確認簿に記載など取り決めを遵守し事故防止に努めました。

#### (7) 情報公開への取組について

- ・「年間事業計画」、「収支決算報告」は金沢区ホームページで公表するとともに、冊子を事務所に常置し、閲覧の要望へ迅速に対応できる体制を整えました。  
(今年度開示請求 0件)
- ・ケアプラザ広報誌には、「ケアプラザ事業の周知」や「個人情報の取り扱いの体制」、「事業計画・報告等の閲覧について」等を毎号掲載し周知に努めました。
- ・ホームページ、フェイスブック、インスタグラムで施設運営・事業展開・ボランティア活動の様子を許可いただいたうえで公表し広く情報提供に努めました。

#### (8) 人権啓発への取組について

- ・身体拘束、個人情報保護、倫理及び法令遵守について、外部研修を受講した職員が講師となり、施設内研修会を実施しました。
- ・法人作成の相手の立場に立って考える気配りを明文化し集約した「思いやりマニュアル」を用い研修を行い職員に人と人の関わり、職員がお互いに思いやり行動を発揮できるように努めました。
- ・広報誌等の配布物に使用する語句は差別用語に留意し、複数の職員が確認しました。
- ・「身体的、心理的、経済的」虐待に関わる総合相談においては、関係者の人権に十分留意した対応を行う為、多職種（区・区社協）からの助言を受けながら取り組みました。

#### (9) 環境等への配慮及び取組について

- ・市役所ごみゼロルート回収に参加し「燃やすごみ」、「廃食用油」、「古紙・ペットボトル」等を正確に計量し実績報告を行いました。
- ・ゴミゼロ委員会を3ヶ月ごとに開催し、ごみの量削減、資源の有効活用への取り組みについて施設内に周知、消耗品はリサイクルペーパーなどを活用しました。
- ・節電と節水、節紙等のポスターを作成し利用者を含め施設全体で省エネに取り組み5/1～10/31 クールビズ推進期間と定め室内の温度調整に努めました。
- ・備品の劣化の有無を点検し不具合は行政と協議の上で改善を行いました。

## 介護保険事業

### ● 指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業

#### 《職員体制》

管理者 1 名  
主任ケアマネジャー 1 名（管理者兼務）  
社会福祉士 1 名  
事務員 1 名  
保健師又は看護師（平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 2 月 28 日まで配置。  
平成 31 年 3 月 1 日より不在）

#### 《目標に対する成果等》

インフォーマルサービスも含めた総合的なケアマネジメントを行い、ご利用者様が  
住み慣れた自宅で自立した生活を送ることが出来ました。

#### 《実費負担》

●なし

#### 《その他》

ご利用者様の意思を尊重、自己決定を大切にし、十分な説明と情報提供を行い、  
公正な支援を行いました。  
関係機関、地域の保険・医療・福祉サービス団体と連結し、総合的なサービス  
を提供しました。

#### 《利用者実績》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
117	112	108	118	116	113
10月	11月	12月	1月	2月	3月
111	110	123	124	126	122

● 居宅介護支援事業

《職員体制》

- ・ 介護支援専門員 5 名体制  
(常勤兼務 1 名・常勤専従 3 名・非常勤専従 1 名)

《目標に対する成果等》

- ・ 医療ニーズの高いご利用さまへの支援として、医療機関との関わりを深め、連携を強化しました。
- ・ ケアマネジメントの資質向上を図る為、事業所内で毎月の勉強会、各介護支援専門員が内部、外部の研修に積極的に参加しました。法人内の事業所との連携も定期的に行い、ご利用者さま満足を目指した支援にむけて、スキルアップを図りました。
- ・ 地域ケア会議・民生委員交流会へ参加し、地域との関わりを深め、インフォーマル支援を提案し支援を幅広く行いました。

《実費負担》

- なし

《その他》

- ・ 主任介護支援専門員を配置し特定事業所加算を算定しました。
- ・ 所属の介護支援専門員が横浜市社会福祉協議会高齢福祉部会の介護支援専門員研修会の役員を務め、横浜市内の老人福祉施設の介護支援専門員や役職員を対象に研修会を主催しました。(平成 30 年度は年間 6 回の研修を開催)

《利用者実績》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
120	124	129	139	130	124
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
133	132	129	131	128	122

● 通所介護・認知症対応型通所介護

《提供するサービス内容》

- 送迎、入浴、食事（昼食・おやつ）レクリエーション
- 個別機能訓練
- 延長サービス

《実費負担》

- |         |        |        |                |
|---------|--------|--------|----------------|
| ● 1割負担分 |        | 2割負担分  |                |
| （要介護1）  | 638円   | 1,276円 | ●個別機能訓練加算（Ⅰ）   |
| （要介護2）  | 754円   | 1,508円 | ●個別機能訓練加算（Ⅱ）   |
| （要介護3）  | 873円   | 1,746円 | ●サービス提供体制加算（Ⅰ） |
| （要介護4）  | 993円   | 1,986円 | ●中重度者ケア体制加算    |
| （要介護5）  | 1,113円 | 2,226円 | ●認知症加算         |
| ●食費負担   | 790円   |        | ●延長サービス加算      |
| ●入浴     | 54円／1回 |        | ●介護職員処遇体制加算（Ⅰ） |

※ その他、実費相当を徴収するものについては、各施設で項目を増やして記載をしてください。

《事業実施日数》 週 7日

《提供時間》 9：30 ～ 16：40

《職員体制》

相談員	専従 0名・兼務 2名
介護職員	専従 0名・兼務 18名
看護師	専従 0名・兼務 5名
機能訓練指導員	専従 0名・兼務 5名

《目標に対する成果等》

- ・介護ロボットを導入し、ご利用者さまへレクリエーションとして手で触れたり会話を楽しんでいただきました。
- ・毎月ごとに行事の一覧を配布することでご利用者さまが選んで自発的に参加することができました。

《その他》

- ・SNSを活用し、デイサービス内の情報を発信している。

《利用者実績（延べ人数）》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
1,108	1,186	1,113	1,132	1,165	1,114
10月	11月	12月	1月	2月	3月
1,156	1,116	1,093	994	973	1,080

● 介護予防通所介護・第1号通所事業・介護予防認知症対応型通所介護

《提供するサービス内容》

- 送迎、入浴、食事（昼食・おやつ）

《実費負担（徴収する項目ごとに記載）》

- |         |        |        |
|---------|--------|--------|
| ● 1割負担分 |        | 2割負担分  |
| （要支援1）  | 1,766円 | 3,531円 |
| （要支援2）  | 3,621円 | 7,241円 |
| ●食費負担   | 790円   |        |

《事業実施日数》 週7日

《提供時間》 10:00 ~ 15:00

《職員体制》

通所介護に準ずる

《目標に対する成果等》

- ・介護予防通所介護事業としての機能を果たし、通所介護に準じたサービス提供する提供することに努めました。

《その他》

- ・地域包括支援センターとの連携を図り、迅速に受け入れました。

《利用者実績（契約者数）》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
8	8	5	8	4	1
10月	11月	12月	1月	2月	3月
4	2	3	1	3	7